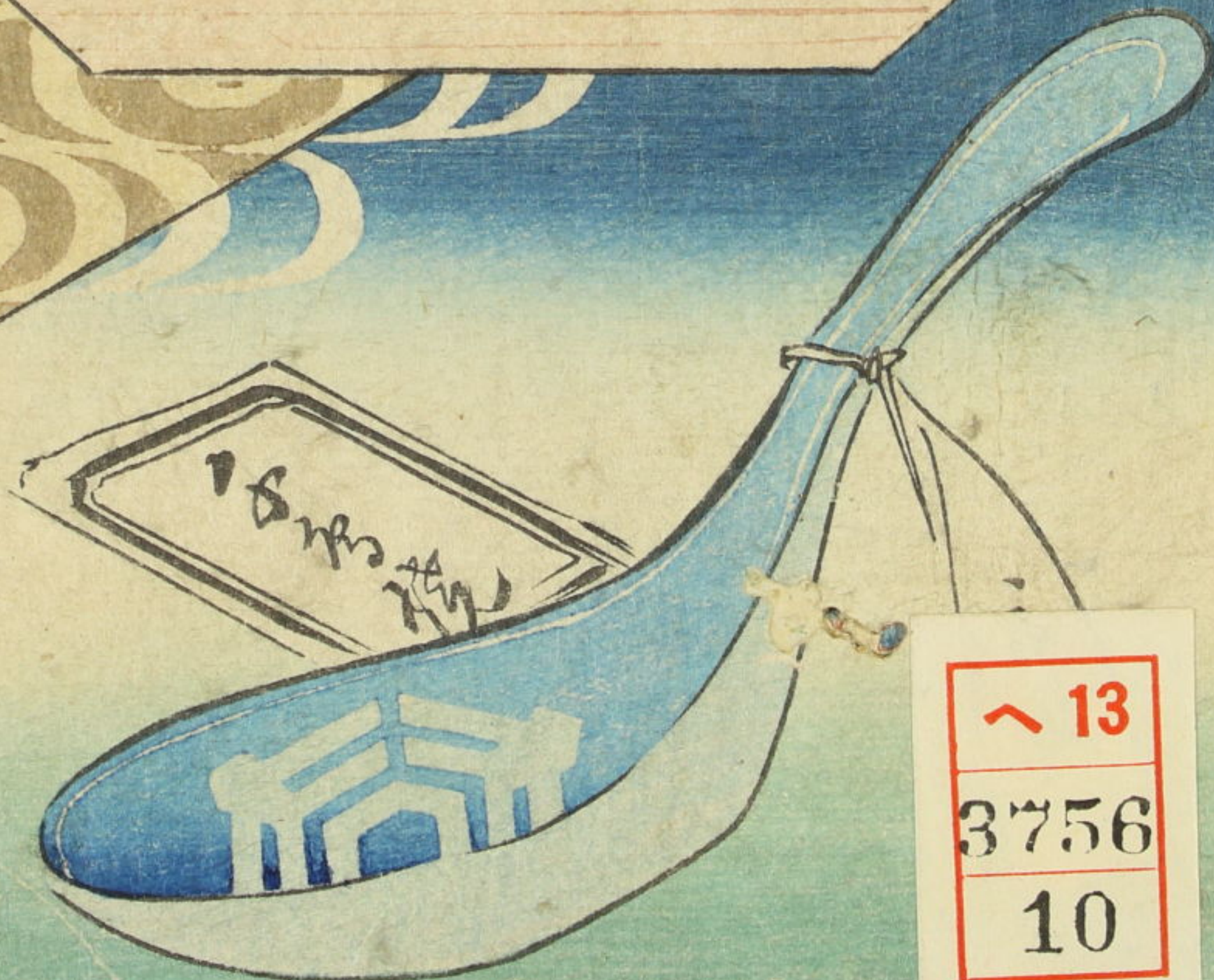


Gōkan: (014)
Jidai Kagami.
Part C. Book 28--39.

Decorative binding.

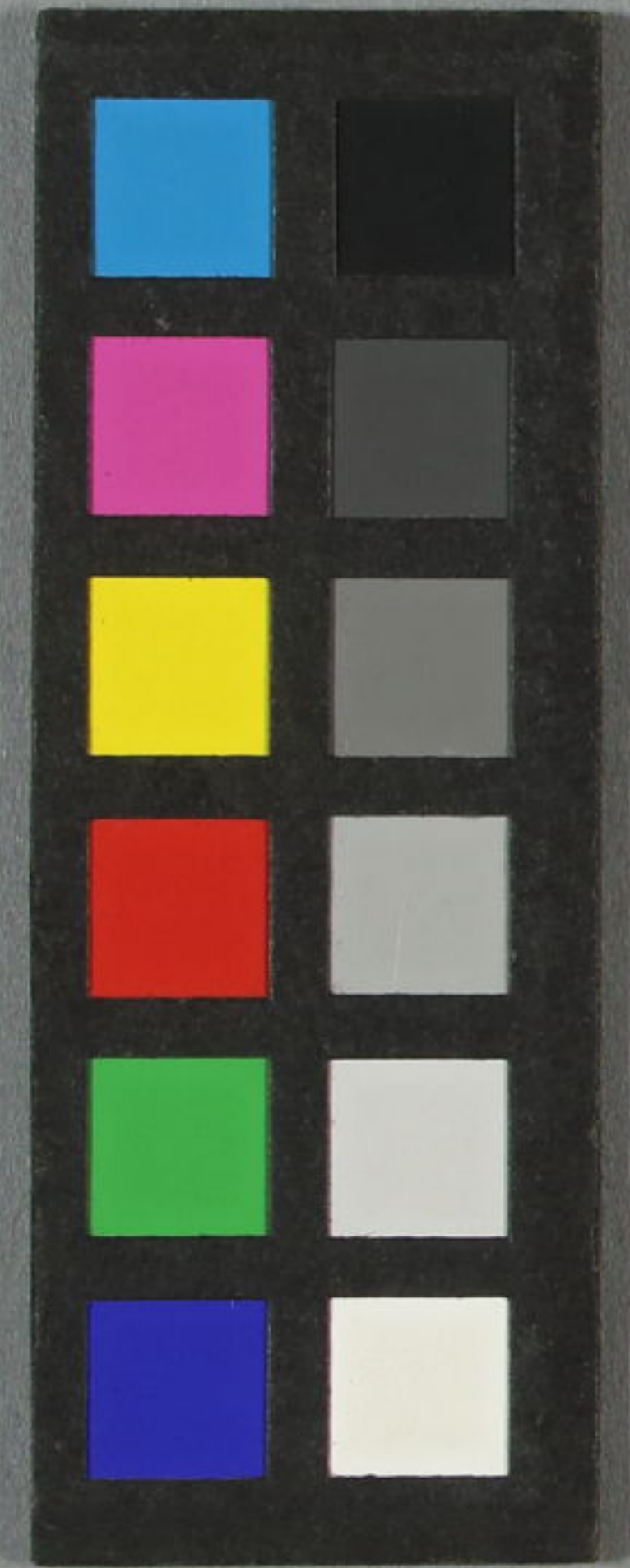
時代鏡
廿九編
春水作
國貞画



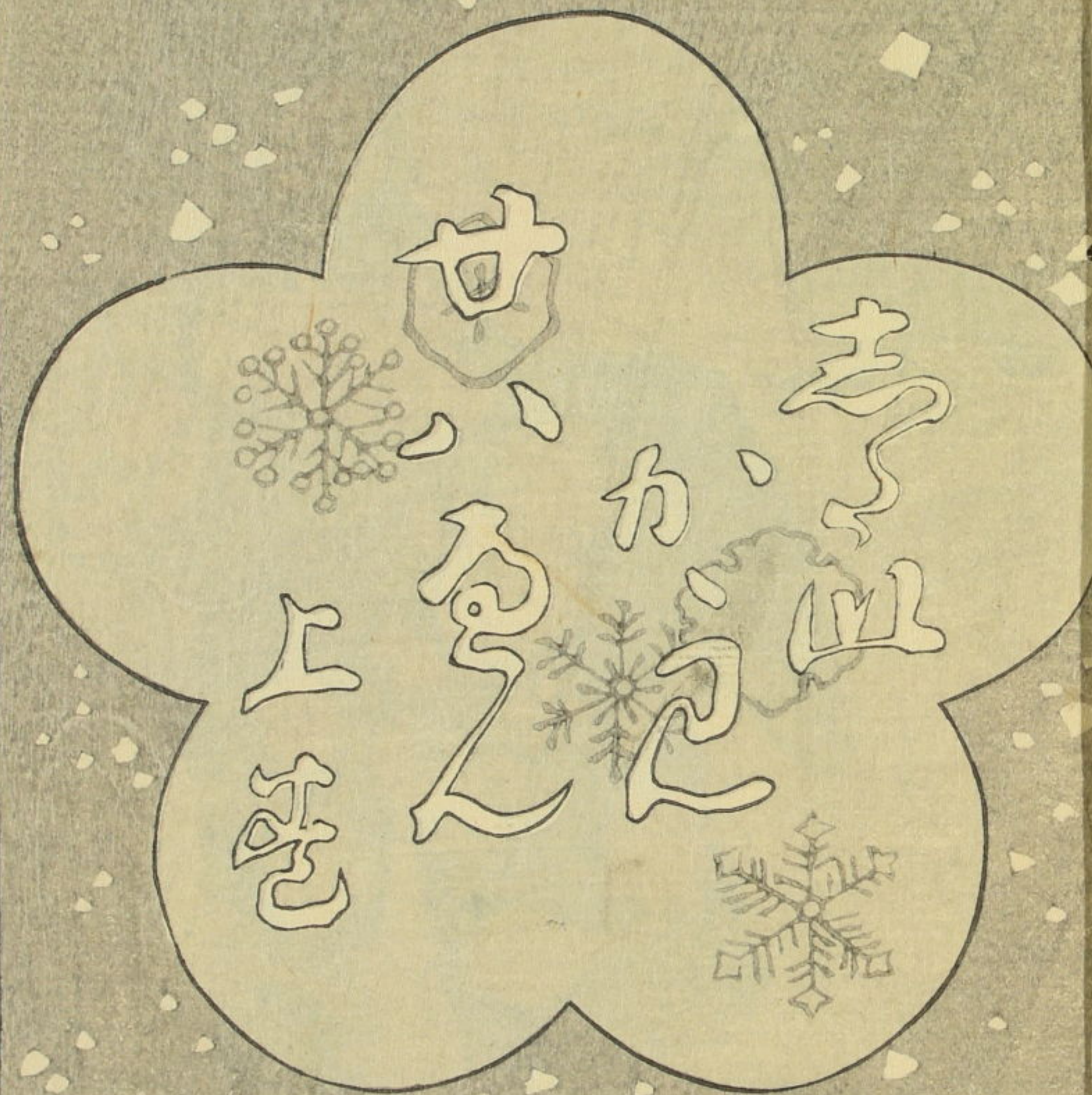
~ 13

3756

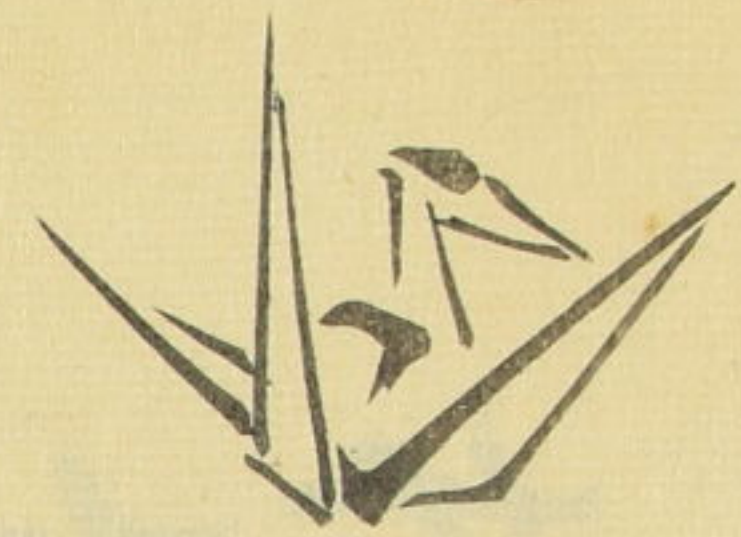
10



為永 春水 作 歌川 貞 畫



文久 癸亥 刻 若林 堂 新 販

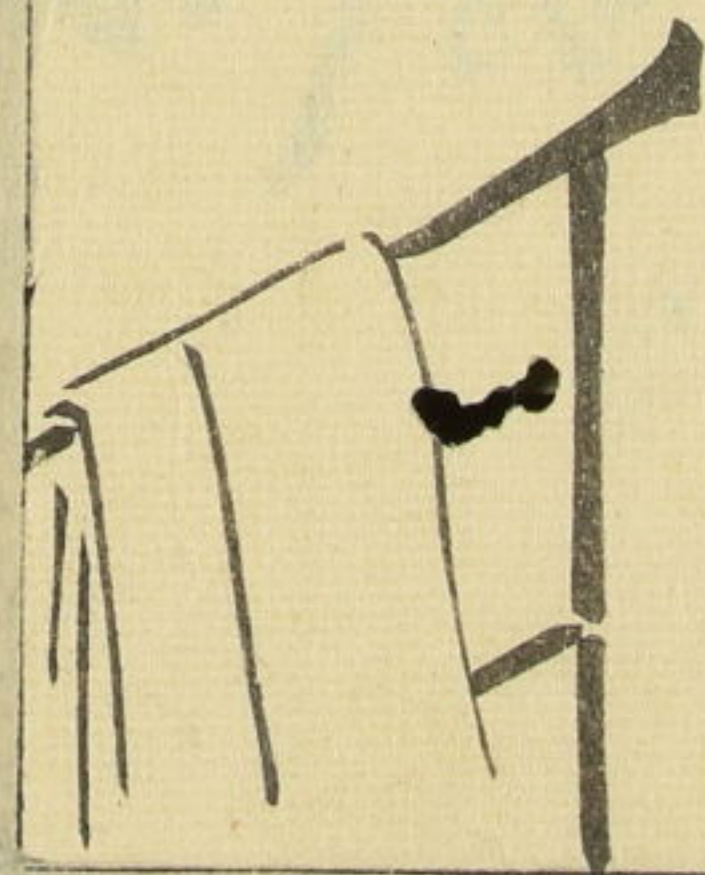


時代鏡

廿八編下卷



為永作國貞畫
若狹屋与市板



魚戲墨



小文
美淡
時代鏡

廿八編下

若林文庫

士八編上 貞

化 有 癸亥
什題曲豆國由
梓



外題曲五洲堂

美水化
國貞画

下編九廿

廿九編上

美水化
國貞画

美水化
國貞画

北雪
美談
時代鏡



舟題曲多國史

さや
梅

下編十三



春水作
國貞画

門へ13
3756
卷10



志々水々々

二十篇の下

為水水化

うへ川水化

その水化



稗史の巧あるものなれど大槩十小七八まで首巻小巧と
措る條の後冊小い〜〜介あ〜〜と見功者ある〜推
多〜然る深慮り東西の意表小出〜賞て新
看官忽地膝を敲き其處小驚嘆る〜し〜賞て新
奇妙案とよ開ハ予が如き拙作の企及よ所小あら〜と
本編既小その場小い〜〜那岳ヶ嶽兄弟が身の上〜も
説出〜〜具ある小至〜〜紙員尽て筆を閣ぬ
這ハ何〜〜結ぶ〜〜と作者が肺腑と戯小探らせ
〜是も又夜長の伽のひ〜〜

癸亥早春

為永春水記

寺



白山雪若冬

寺代十八

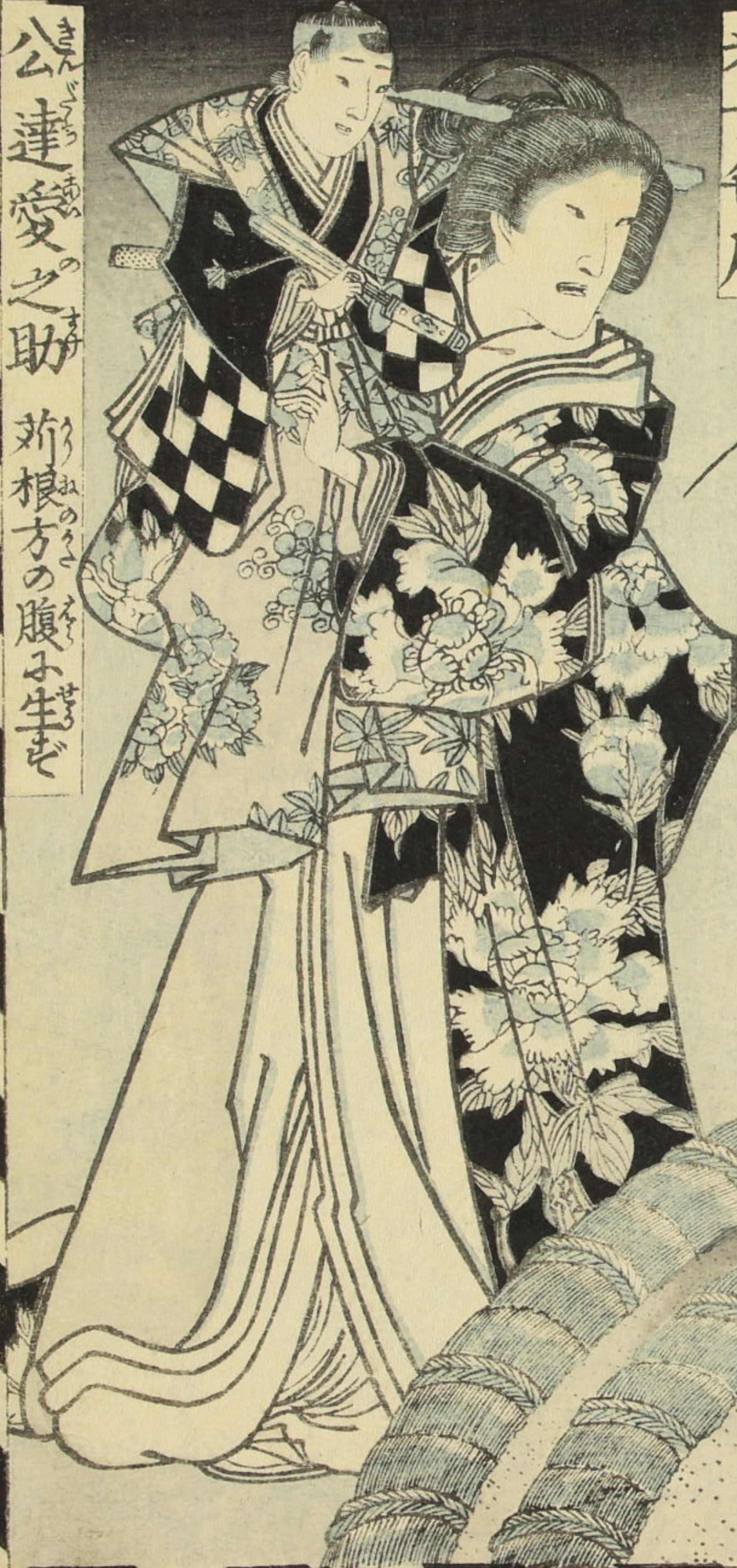


老女花江

公達狗喜代丸
梅園前の
腹小生

甲代十八

公達愛之助
新根方の腹子生



老女笹尾



湯尾安波太郎

敦連



甲子十八

時代十八

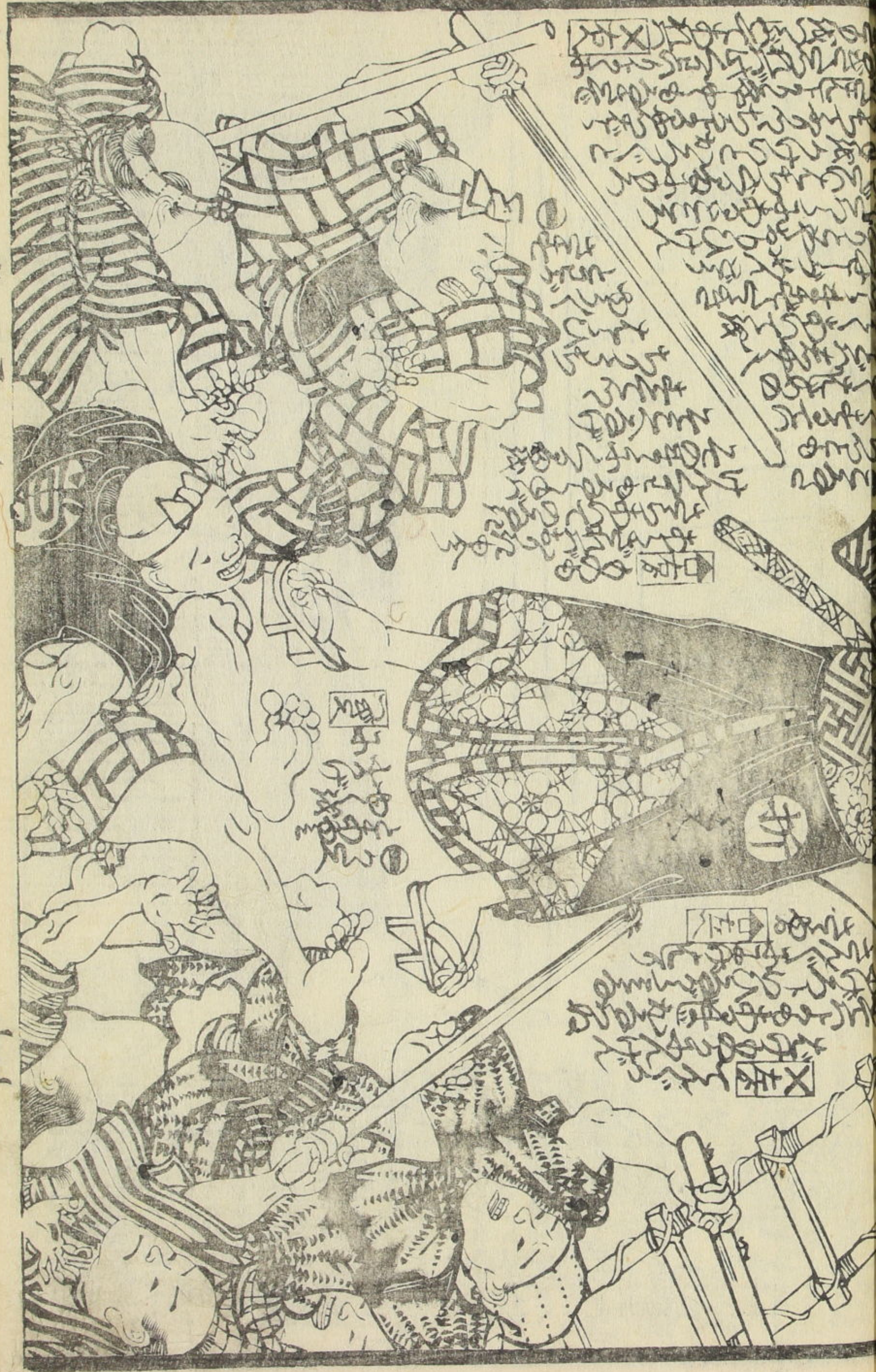
三



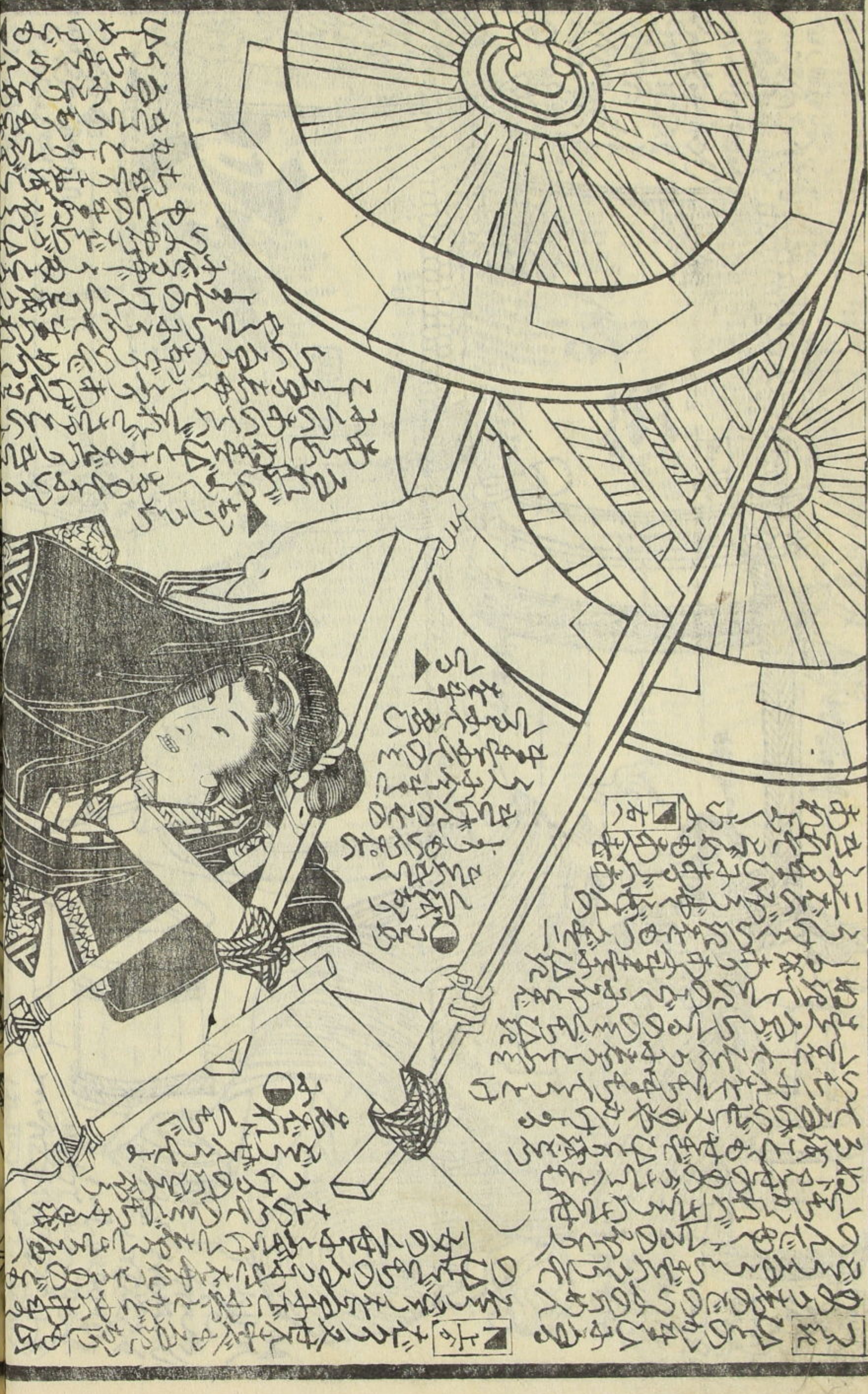
寺
 中
 十
 由
 穴

穴
 七

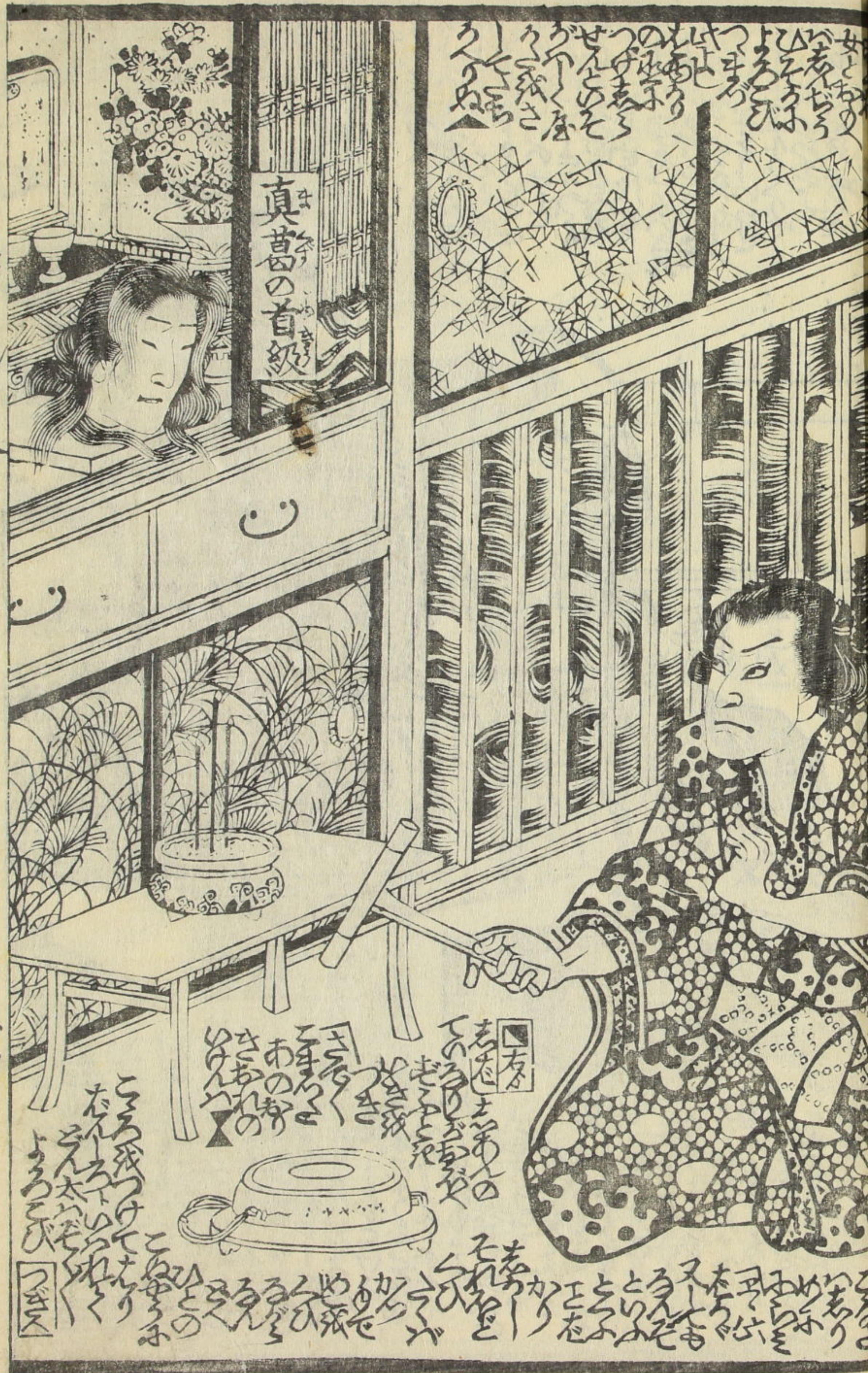




Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a list of items related to the illustration. The text is written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or list from the left page. The text is written in a cursive style.

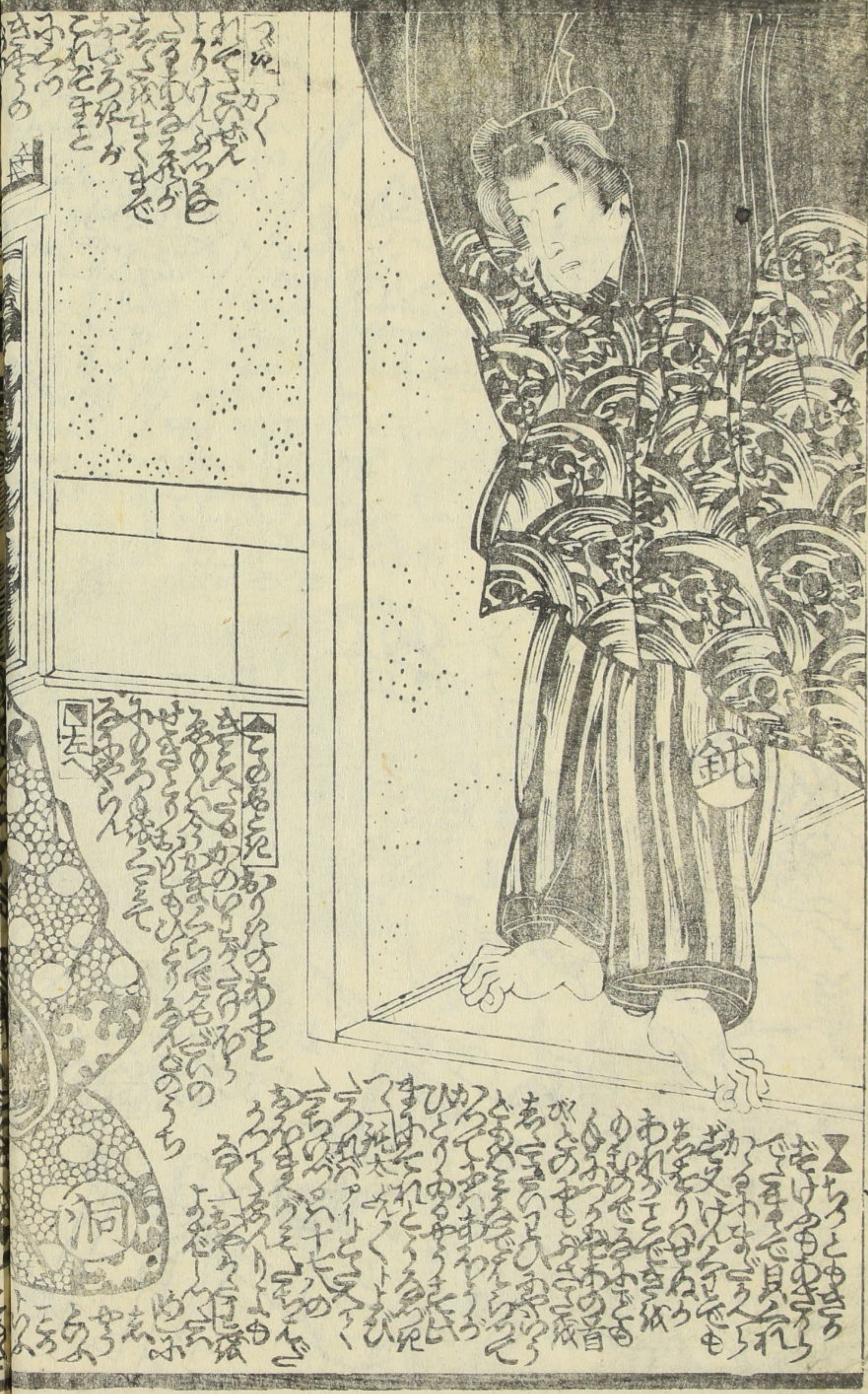


つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり

真喜の首級

おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの

おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの



つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり
つとむり

おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの

おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの
おのの

此の物語は、昔の事である。ある朝、
 山崎の村に、一人の武士が居た。その
 名は、山崎の太郎。彼は、村の頭目
 の娘と、結婚した。その娘は、美し
 くて、賢い。太郎は、彼女を、愛
 した。



山崎の太郎は、
 村の頭目の娘と、
 結婚した。

太郎は、彼女を、
 愛した。



山崎の太郎は、
 村の頭目の娘と、
 結婚した。

太郎は、彼女を、
 愛した。



真葛の天

友

寺廿八

いぬのふりて...

友

上は...

命を断るに異う有右奇術の
あまのつらさを花江命も立断る
さうは証さうと難むる子なるや
聞きし首さうら掉り弁口を
のぞきしそのて知らざる評多
下基妖術の左道中て壁兵
年任る野子なる愚民を蟲
魁たる一介の弟子の師
西の悪事と訴を自か采利
をのこのへを思ふ小入る
妖のそみの妖蝶の形小駁
き下り絶する支も
あまの婦徳をる
花江命も
邪術小
妖術小

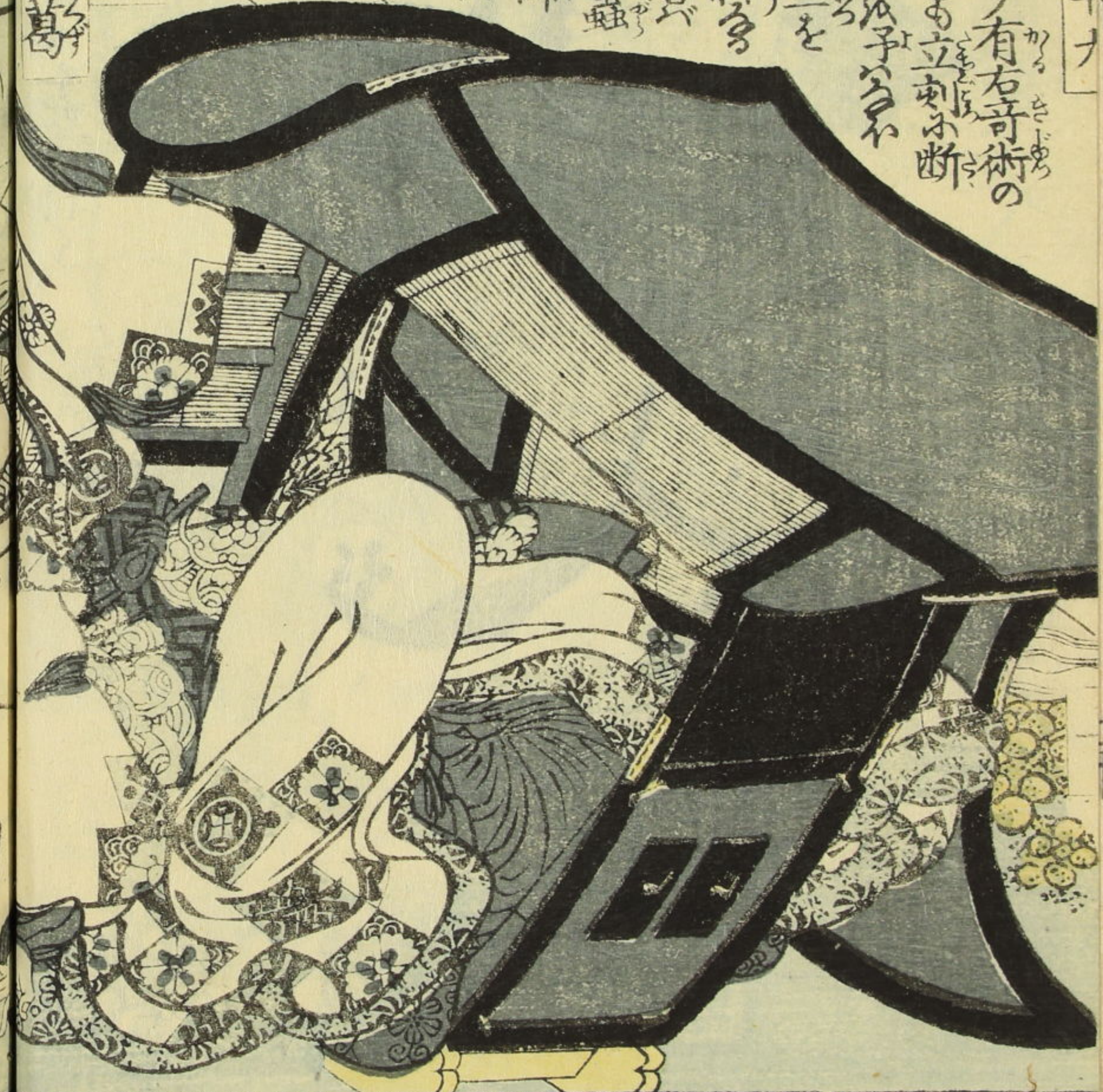
歌妓
真葛

あまの
真顔
論
想
居眠の中
見し夢
るは其夜写
と余紙と塞



右
文久三
高春
吉田
為永春水記

三國
浪客の
荒地の
山平





舟に乗りて

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり
あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり
あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり



甲子十九

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

あつちの舟に乗りて
こゝろをなやませり

右の女は... 左の女は...

上段の縦書き本文



下段の縦書き本文

左の女は...



中段の縦書き本文

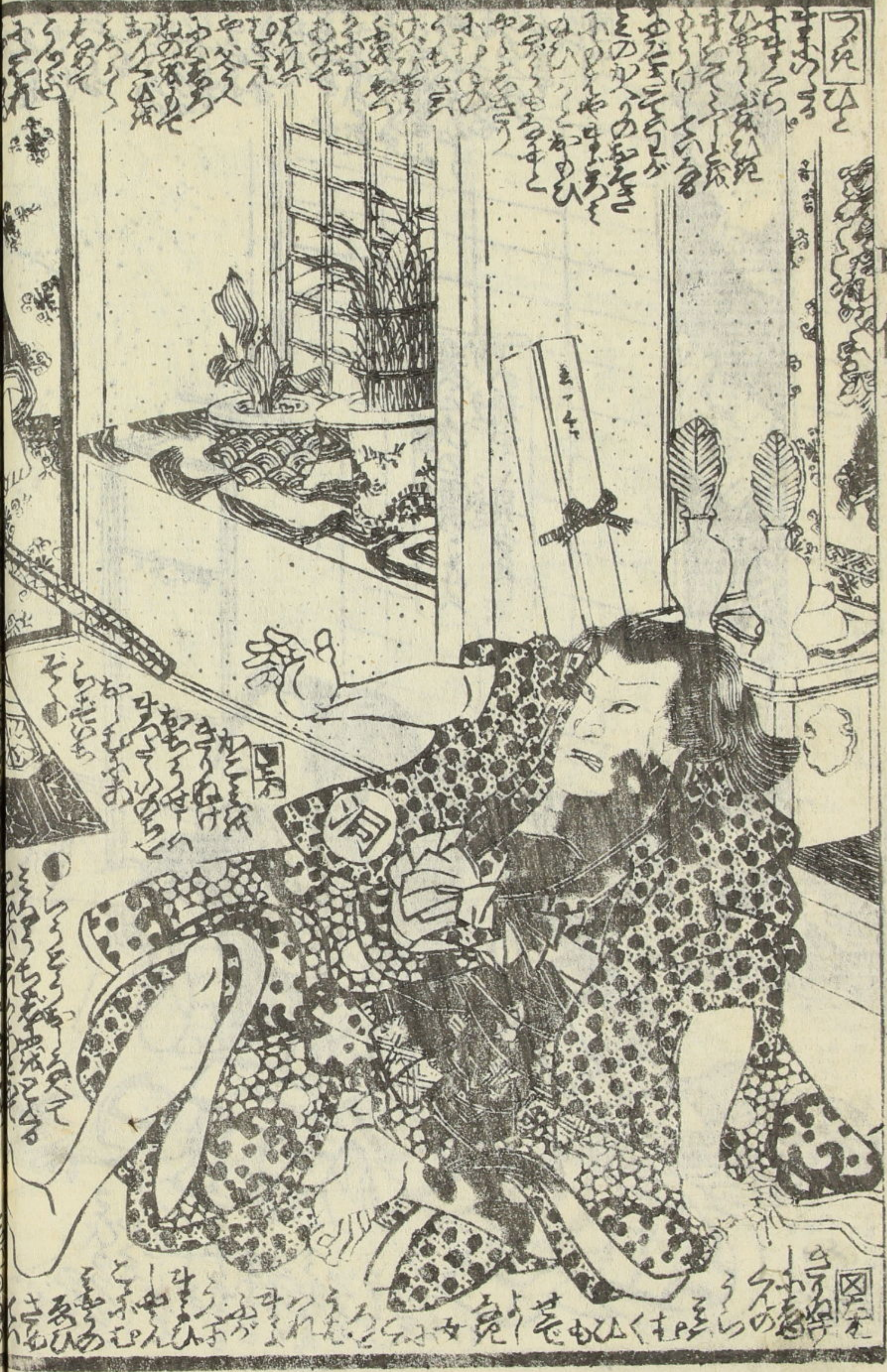
下段の縦書き本文





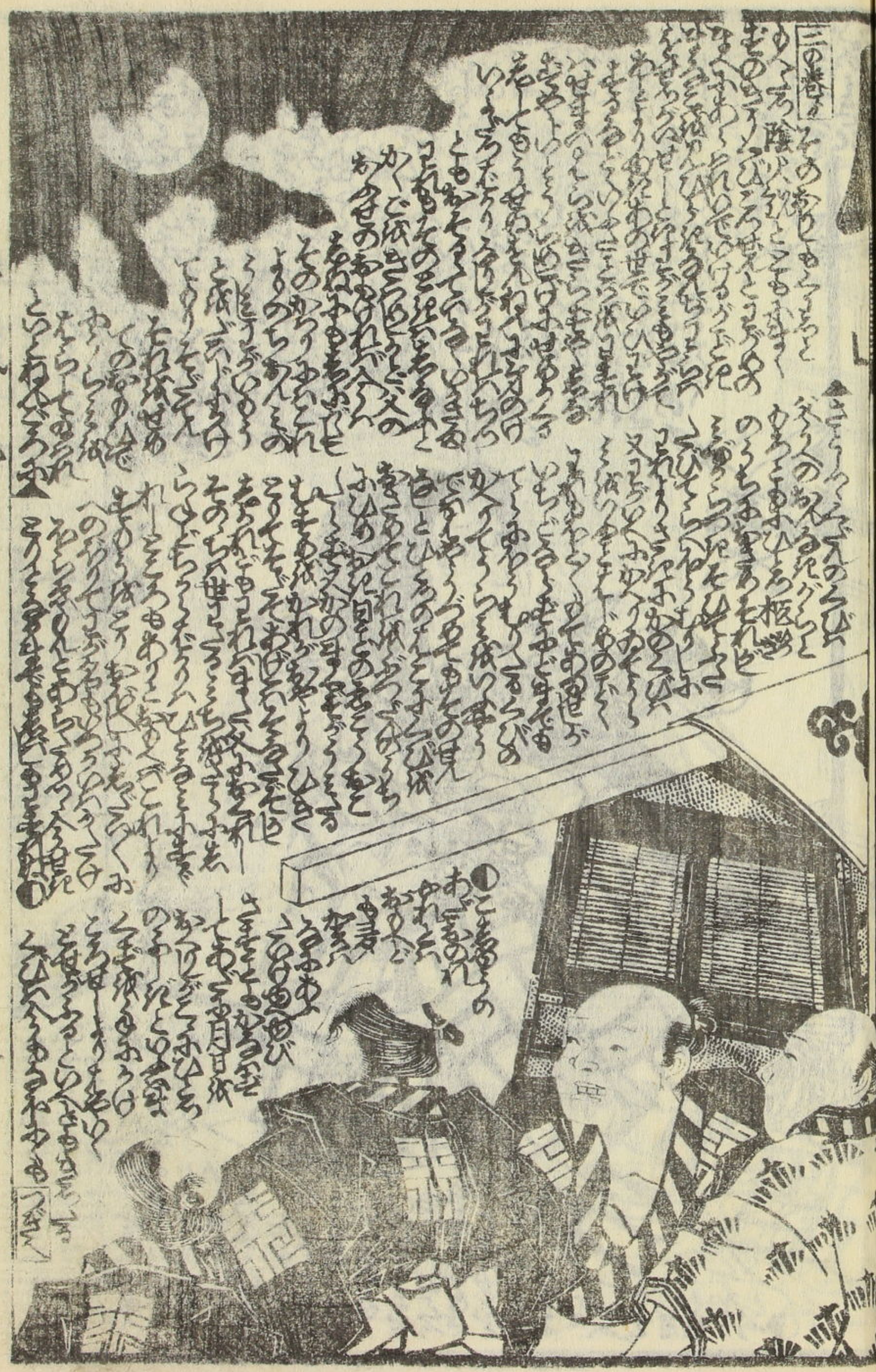
寺代十九

芝神羽折



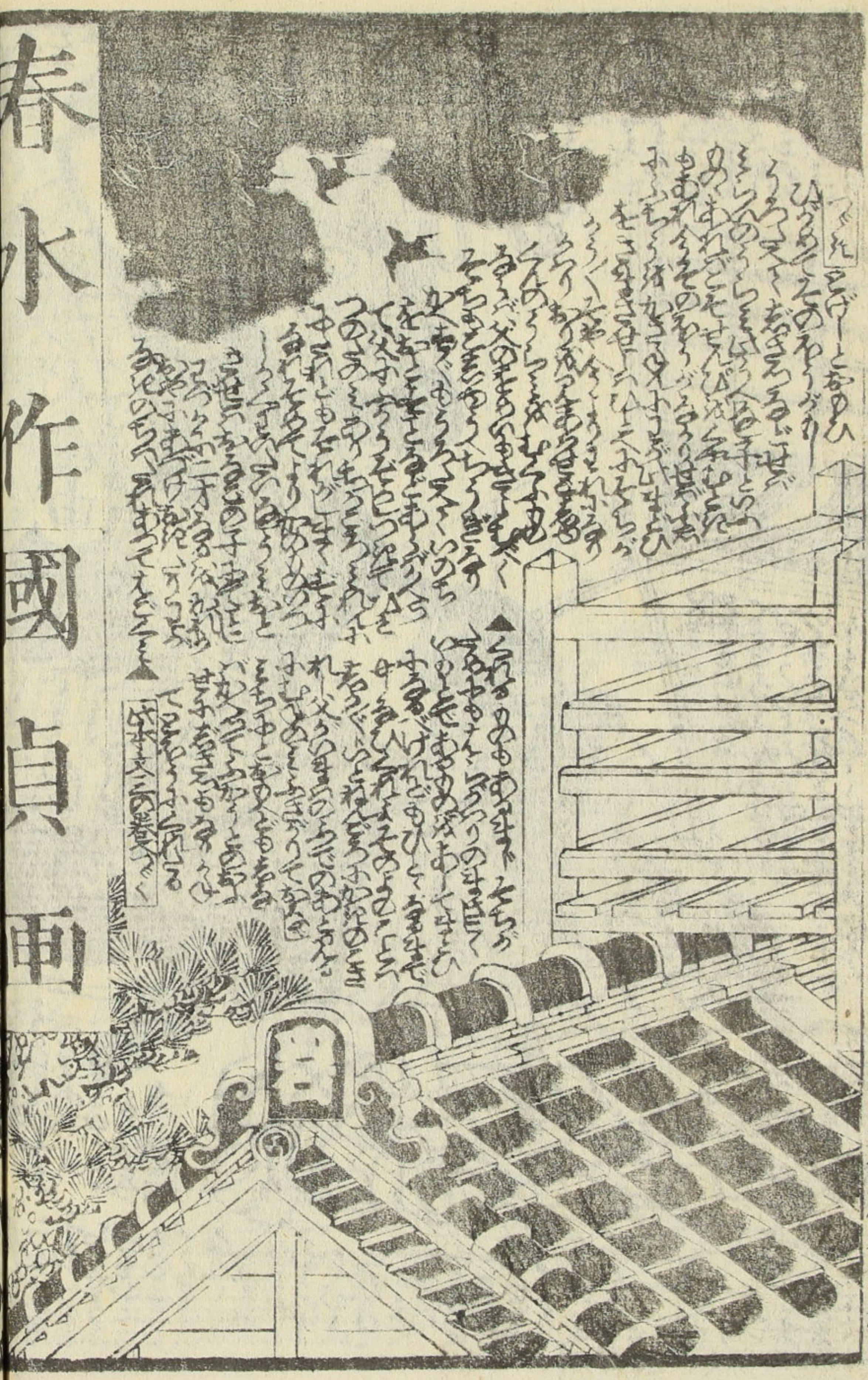
甲子十九

十九



廿七

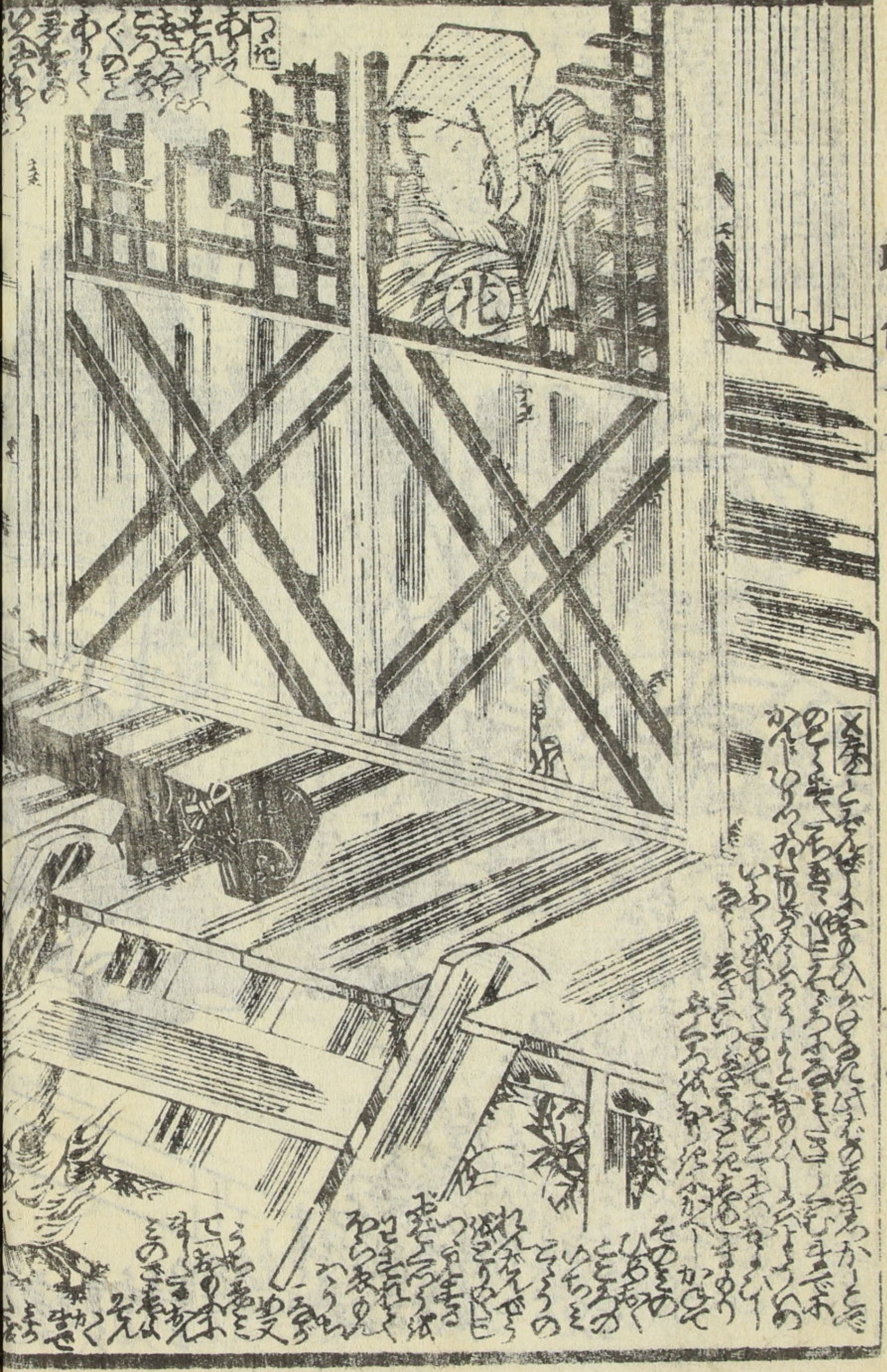
春水作國貞画



甲午

若狭屋與市初





甲子年九月

十三



寺七十九

十一

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or poem related to the illustration. The text is written in a cursive style.



時十九

十五

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or poem related to the illustration. The text is written in a cursive style.



寺七十九

寺七十九

ついでに...
あつちの...
ついでに...
あつちの...

▲左...
あつちの...
ついでに...
あつちの...

▲右...
あつちの...
ついでに...
あつちの...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

あつちの...
ついでに...
あつちの...
ついでに...

寺七十九

寺七十九



寺七十九

二一 延伸 明前

甲八十九

九

朝鮮牛南丸 大色金牙 小色金牙 小包百鋼
 鮮牛南丸の液補ひ
 小色金牙の液補ひ
 小包百鋼の液補ひ
 大色金牙の液補ひ

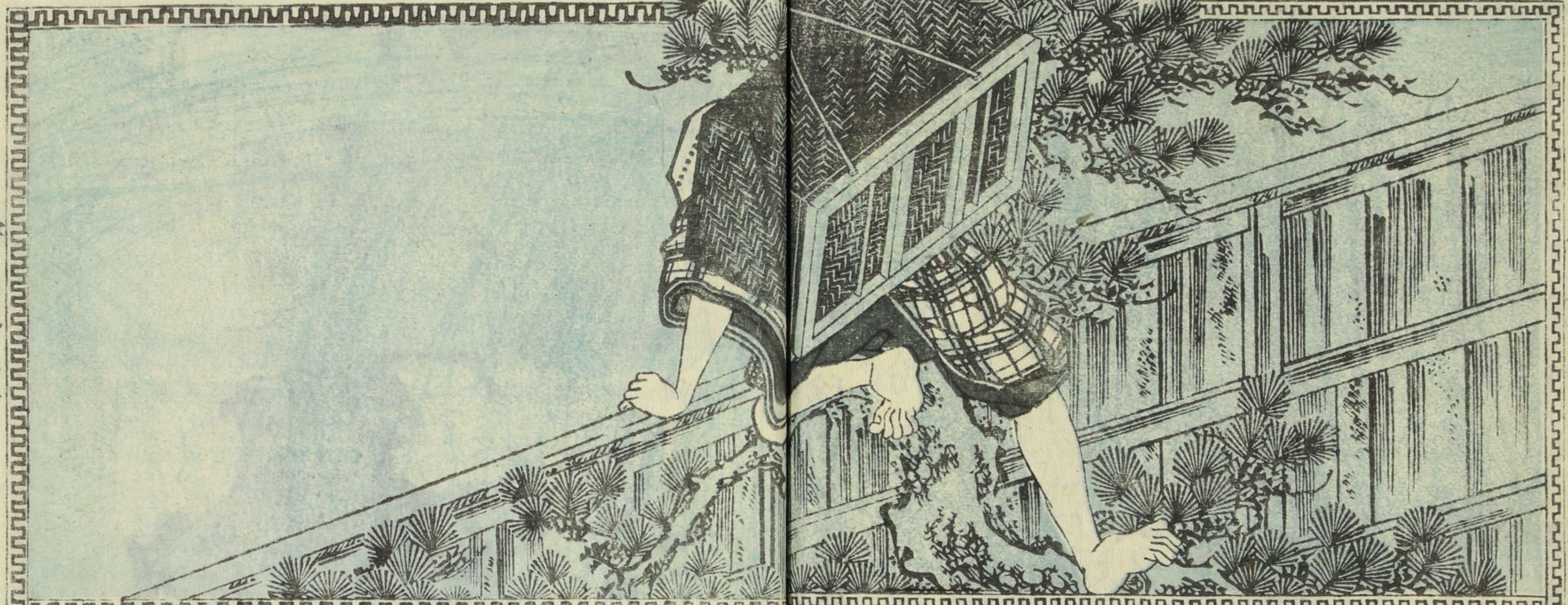


箕田 青洲 浄書

為永春水作海蝶畫國貞画

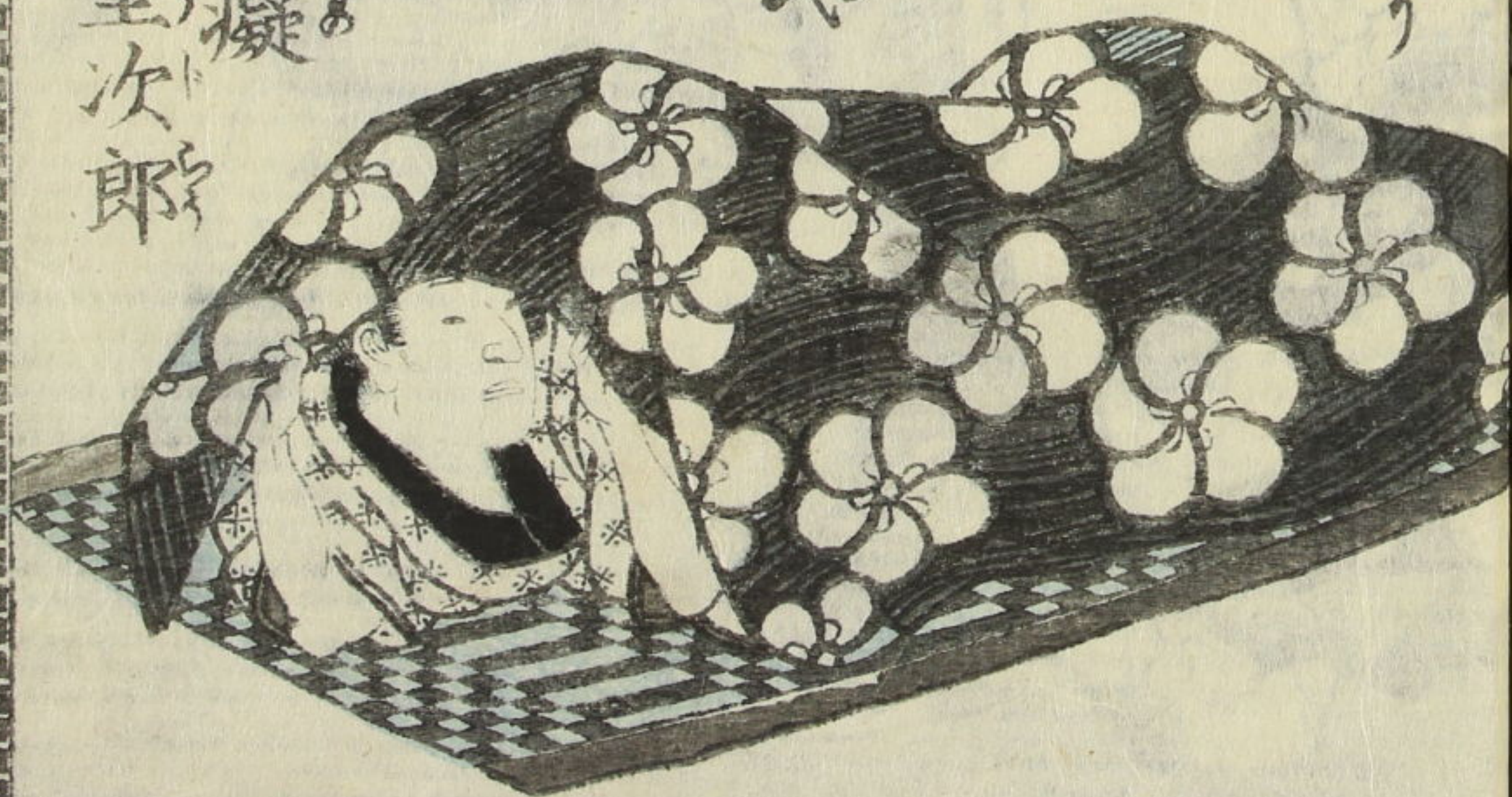
鏡小面の醜美へ移せご心の善悪と移せハ早あり。然ハ
 面の醜さ。紅粉少く上紙粧ひ。心の悪く穢氣ある
 も。言紙飴り。覆ごも。跡より元々。怯し。
 尚より仁義八行の洗粉紙めて磨たる。面ハ生得の
 俣かりとも。心の真の美人とあり。予が這時代鏡
 の如きも。婦幼の心紙移さ。めん。為小設。器あれ
 とも。紙員も薄き硝子細工の。げ。筆と立。ま。い
 作者が自惚鏡と言。い。ま。ん。

甲子新春良辰 為永春水記



甲子三十一

白癡
童次郎



志乃
花乃
童次郎



茨木屋
鬼門次

年代三十

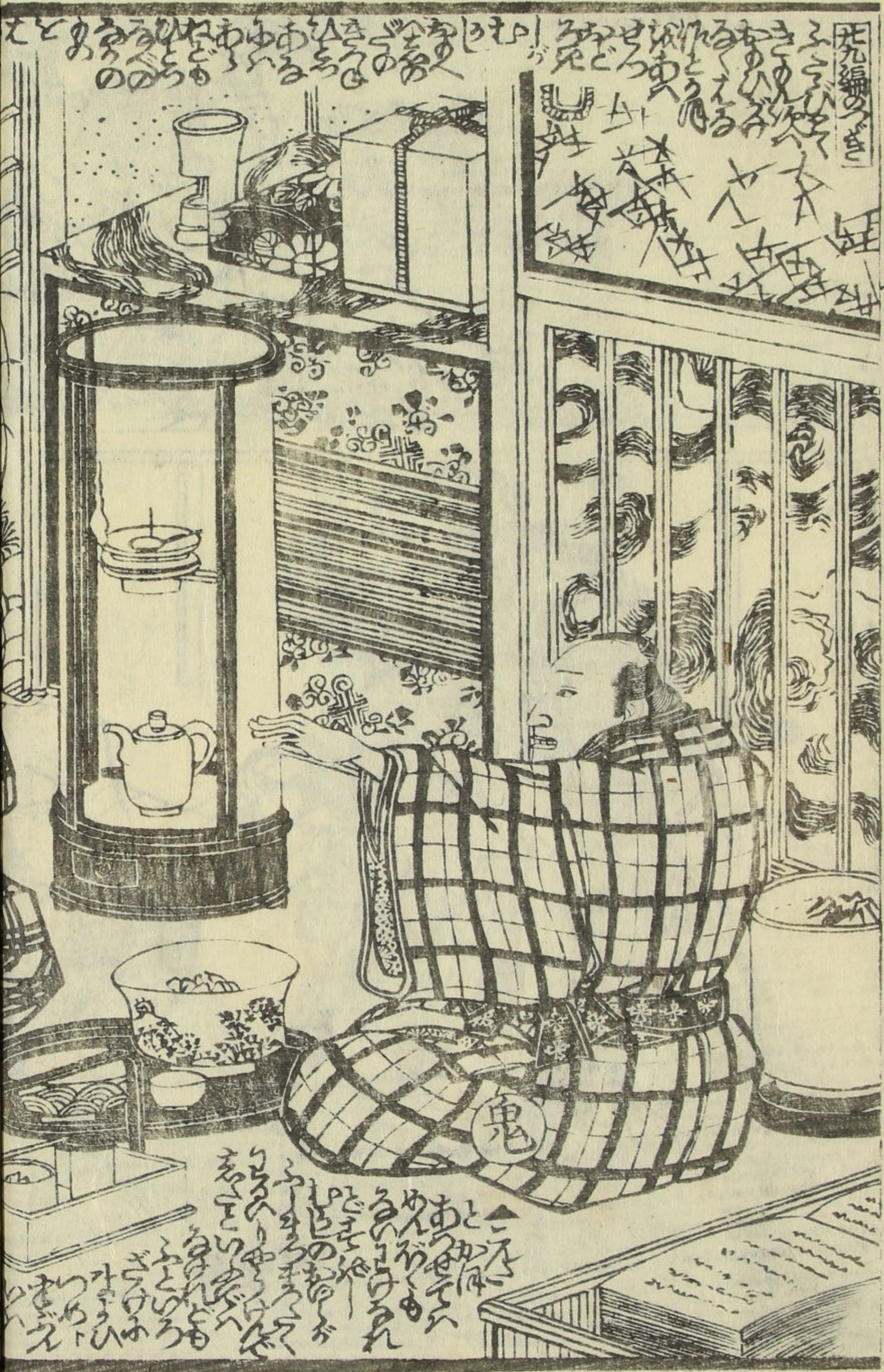
鷹匠者
目九郎

淫婦
阿支那

下女
七内

若黨
五六





花

鬼

甲代三十一



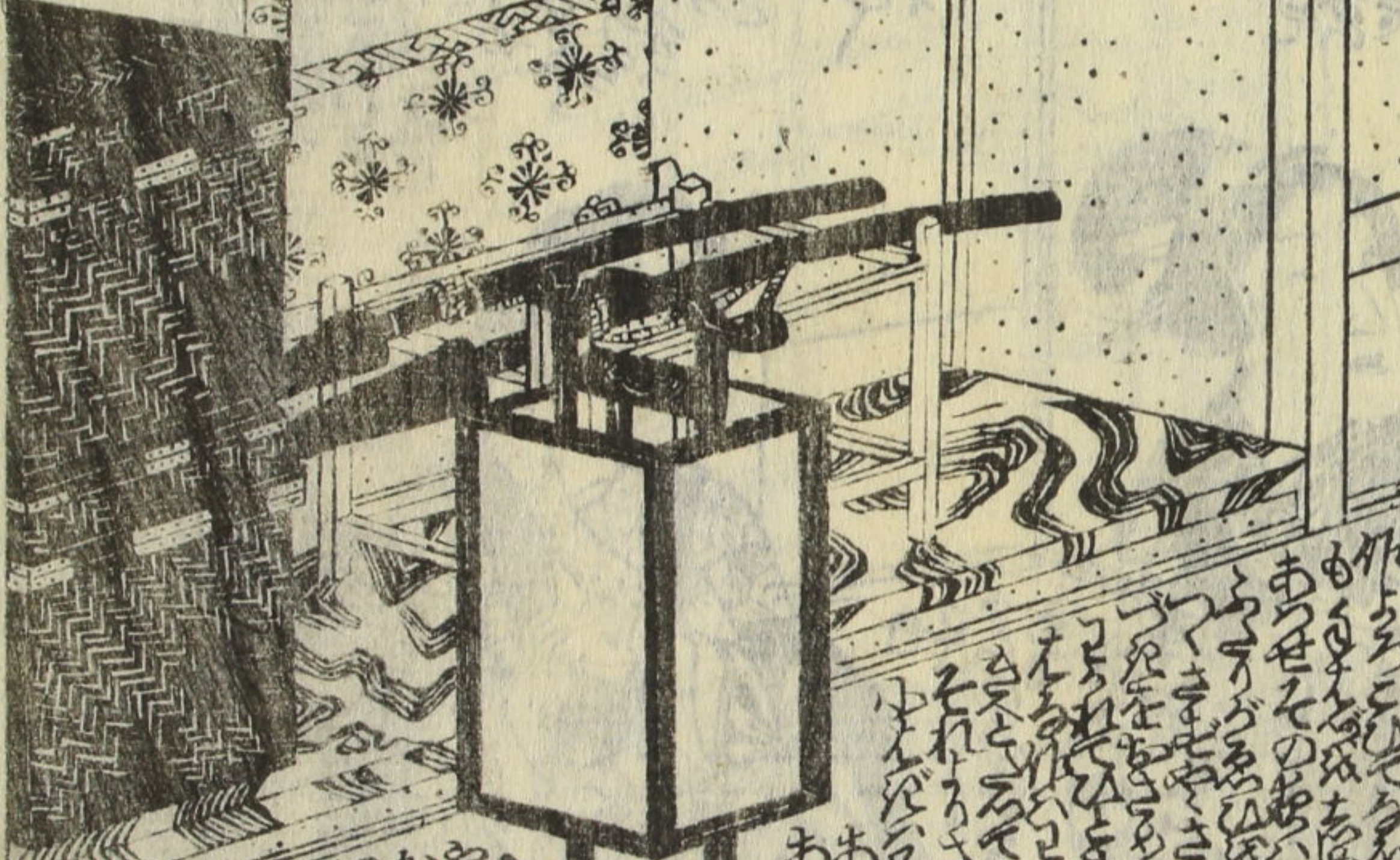
侍
七
三
十

○

○

○

Handwritten text in the upper left section of the left page, including the characters "山" (mountain) and "川" (river).



Handwritten text in the lower left section of the left page, including the characters "山" (mountain) and "川" (river).

Handwritten text in the upper right section of the right page.



Handwritten text in the lower right section of the right page.



Handwritten Japanese text in the upper portion of the page, likely a dialogue or narrative description related to the scene above.

右中八

Handwritten characters on the left margin.

甲子三十一

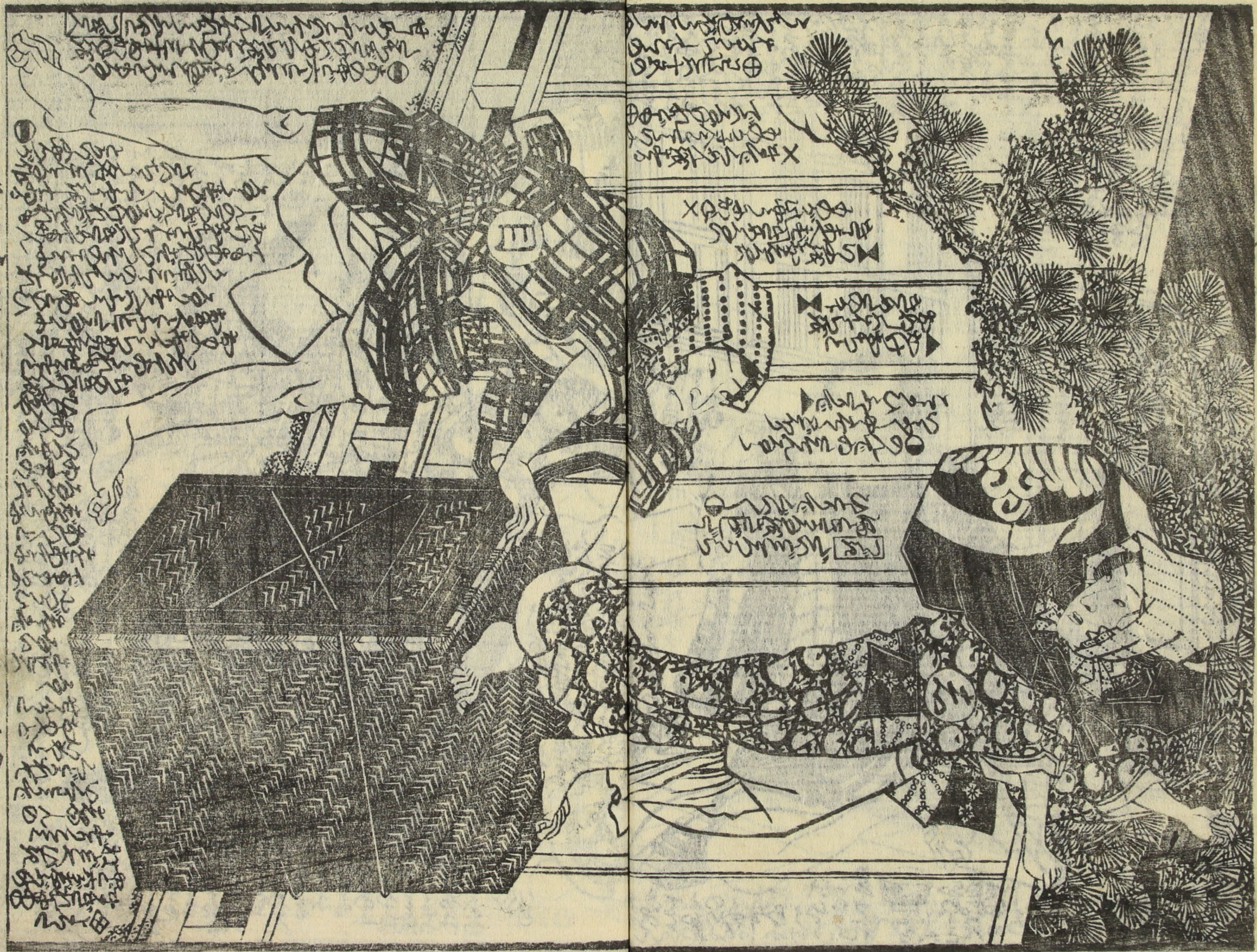
Handwritten characters on the right margin.

Handwritten Japanese text in the lower portion of the page, continuing the dialogue or narrative.



甲子三十一

甲子三十一



三十一

三十一

三十一

三十一

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top left of the page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom left of the page.

Vertical text on the left margin: 十七三

Vertical text on the left margin: 十一

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top right of the page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom right of the page.

Vertical text on the right margin: 田一三

Vertical text on the right margin: 十一



時代鏡

三拾笏

為永春水作
川貞畫
若林堂揮

